



The Comet

The Newsletter of K. International School Tokyo

Volume 19 | Issue 2 | December 2015

➡ In this issue...

- ▶03...KISTival 2015
- ▶05...理事長よりご挨拶
- ▶07...K1創造的活動
- ▶08...K2遠足
- ▶09...スクールカレンダー2016-2017年度
- ▶10...Backward Design Planning
- ▶13...Grade 7宿泊校外学習
- ▶15...セカンダリー美術
- ▶16...DP体験談
- ▶17...ファミリーハンドブック
- ▶25...女性のリーダーシップ会議
- ▶28...KISTクロスカントリー協議会

学校長より

KISTコミュニティの皆様には季節のご挨拶を、

KISTival が終わるとあっという間に冬休み、そして一年が過ぎてしまうのには驚かされます! 今学年度の始まりもとてもわくわくするものでした。この場をお借りして、KISTコミュニティの皆様とこれまでの学校の成長や達成について共有させて頂きたいと思えます。

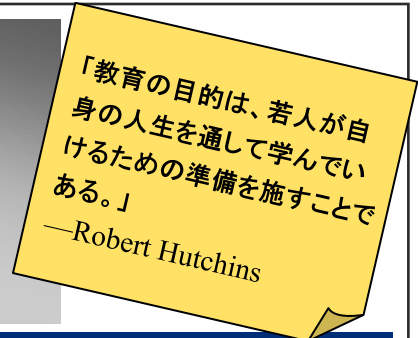
まずは、このニュースレターを購読者の皆様へ感謝申し上げます。皆様は既にご存知かと思いますが、正門前の受付にて印刷されたThe Cometの配布を開始いたしました。前号の発行以来、既に数度The Cometの補充を行いながら、皆様がニュースレターを購読くださっていることを嬉しく感じておりました。The Cometの編集に携わったすべてにとって、コミュニティの皆様がニュースレターを楽しんでくださっていることを知ることは大きな励みになります。今後のThe Cometの記事や、改善方法について、ご意見ご要望がございましたら、どうぞ私宛にメールでお知らせください。編集チームと共有させていただきます。

スタッフの一員として、また一保護者として、コミュニティが一致団結し、学校のために(楽しみながら!)資金調達をするという共通の目標に向けて協力し合うKISTival は一年で私が最も楽しみにしている行事です。今年のKISTival でも、3000人以上の来校者と、学校のサポートのため、900万円以上の売り上げを達成するという大成功に終わりました。今年度のKISTival の収益の一部はセカンダリースクールの水道管入れ替え工事に使用し、残りは将来的な体育館、新校舎建築費用のための貯蓄に回します。KISTival はコミュニティの皆様のご協力、ご貢献が不可欠な行事です。学校を代表し、この場をお借りして今年度のKISTival 成功のためにご協力いただきました皆様にお礼申し上げます。

10月初旬には5年生たちが2016年4月に予定されているPYPエキシビションの準備に必要なスキルを身につけるため、2日間のテクノロジーキャンプに参加しました。キャンプでは生徒達が協力し、スキルを習得しながら挑戦し、且つ楽しめるためのプログラムが盛りだくさんでした! 11月中旬には7年生が、静岡県富士山の裾野にあるYMCAの充実した施設で2日間の合宿を行いました。滞在中、生徒達は環境について学び、森林保護施設を訪問し、実際に20メートル以上の木をのこぎりだけで伐採しました! 生徒達にかけがえのない学習体験を提供するために長時間企画に費やしてくれた先生方、キャンプにご理解いただき、支援して下さった保護者の皆様へ感謝いたします。

次のページに続く

KIST Learning for Life KIST Learning for Life KIST Learning for Life



DATES TO REMEMBER



December 2015

- 4 (S) Winter concert (*Evening)
- 5 SAT@KIST
- 11 (G1-G12) Clubs program ends / (Nu-G5) LEAP classes end
- 14-16 (G9-G11) Semester 1 examinations
- 16 (E) Winter concert (*Morning)
- 17 (G6-G12) SRC dance
- 18 ((Nu/K1/K2/K3) Aftercare not available on this day
- 19-Jan 10 Winter vacation
- 21-22 Office open

January 2016

- 11 Staff development day (No school for students)
- 11 2016-2017 enrollment applications close
- 12 School resumes for all students
- 12-19 (G12) Semester 1 DP mock examinations
- 15 (G4-G10) Mathematics diagnostic testing
- 18 (Nu-G5) LEAP classes resume this week
- 21 Semester 2 commences
- 23 SAT@KIST
- 26 (G1-G12) Clubs program resumes
- 26/28/29/Feb 1 2016-2017 enrollment interviews
- 27 Japanese new year party



KIST is an IB World School

PYP | MYP | DP

前ページの続き

11月に開催されたDEAR book parade も大成功でした。今年はスターウォーズのキャラクターに扮した特別ゲストも参加してくれました。生徒達も先生たちも、張り切ってお気に入りの登場人物になりきるための準備を行い、当日はすばらしい仮装で参加してくれました。また、参加者達は特別ゲストのダースペーダー、ストーム・トルーパー、ジャワー族や小さなR2-D2との交流も楽しみました。この毎年恒例のイベントは図書チームと、熱心なコミュニティアソシエーションの皆様のご支援で実施することが出来ました。また、今年はお天気にも恵まれ、多くの保護者の皆様にもご参加いただけました。図書チーム、コミュニティアソシエーション、そして当日ご参加くださった皆様に**大きな感謝**を奉げます。

また、11月には、セカンダリーの生徒数名が、他校生と演劇への情熱を共有するため、地域開催の演劇フェスティバルに参加しました。また、セカンダリースクールでは、2016年1月に、ニューヨーク出身のプロ俳優による2週間の演劇ワークショップ実施の可能性をご報告できることを嬉しく思っております。このワークショップの実施には30名の参加者が必要ですが、これまでかなりの数の参加希望をいただいているため、このワークショップを実施する方向で進んで行きたいと考えております。もし、セカンダリー在籍のお子様に参加の意思がおありでしたら、11月16日にお送りしたE-Communications #124をご参照の上、詳細についてはMr Coweにお問い合わせください。

冬休みに向かう気持ちを更に盛り上げてくれる、冬のコンサートがエレメンタリー・セカンダリーの両校で実施されます。エレメンタリーのコンサートは例年特に多くの観客の皆様にお越しいただくため、今年はウィンター・セレブレーションとして、コンサート時に、更に多くの追加活動を計画しております。コミュニティアソシエーションによる、ホットチョコレートやスナック類の販売の他、サンタとの撮影会や、年賀状の手作り体験など、文化的な活動も実施予定です。12月16日午後のコンサートで、多くの皆様にお目にかか

れますことを願っております。

去年の今頃は、候補校としての認定のため、Council of International Schools (CIS) の訪問チームをお迎えしておりました。それ以来、KISTスタッフは定期的に委員会規模でのミーティングを設け2016年11月下旬の審査訪問に向けて熱心に文書の準備などを行っています。来年度はコミュニティの皆様これら委員会活動にご参加いただく機会が設けられる予定です。委員会よりご参加の要請をお受け取りになられた皆様には、是非、ご協力いただけますよう、お願い申し上げます。

2015も、KISTにとって、忙しくもすばらしい一年となりました。2016もすばらしい一年になることを期待しております。KISTに対する皆様のご理解とご協力で再度、感謝申し上げます。皆様のご支援のおかげで、すばらしいコミュニティを維持できていると感じております。皆様の献身は本校の誇りです。皆様の日ごろのご協力に深く感謝申し上げます。

皆様のご家族やご友人と、楽しく、安全でくつろげる冬休みを過ごされますことを心から願っております。1月12日にまた皆様を学校にお迎えできることを楽しみにしております。

Season's Greetings from KIST!

Jeffrey Jones
Head of School



Image from <http://www.happyholidays2014.com>

生徒アンケート

今年度は非常に良いアンケート回答率を達成することができました。このアンケート結果がどのように活用されるのか疑問に思われている方もいらっしゃると思います。アンケートで得たデータは集計後、各教員に共有され、その後教員は集計結果の分析レポートを作成します。この分析を用いて、教員は各自の強みや改善の必要な分野を判断します。レポートは年次の教員評価システム(TASS)の一環としてエリア校長に提出されます。

アンケートに回答するため、生徒はシステムにログインする必要がありますが、教員に提供されるデータでは回答者は一切特定できないようになっています。アンケートのデータは生徒から見た教室・授業の評価を教員に提供し、自身の授業について教員が振り返るためのものです。アンケートを通して教員をサポートくださった皆さんに感謝します。



KISTival 2015

学校コミュニティの皆様のご協力、ご貢献のおかげで10月24日に開催されたKISTival 2015は大成功でした！今年度のKISTival が楽しく、収益面でも成功したイベントとなることにご協力くださった皆様に心からの感謝を申し上げます。今年度の収益は以下をご参照ください。



総収入: 9,337,584 円

(前年対比+384,613 円) ただし Contribution 未払 60,000 円を含みます。

総経費: 1,643,234 円

(前年対比-12,188 円)

収益額: 7,696,350 円

(前年対比+396,801 円) ただし Contribution 未払 60,000 円を含みます。

- 総収入には事前および当日のチケット・ラッフル売上、当日現金売上、入場料、寄付金、協賛広告、スライダー・フリーライド・バス、Contribution、学習院女子大学の出店料、Café Tomato の寄付分が含まれます。
- 総経費にはフード・アクティビティ経費、チケット・広告印刷、各種レンタル代、廃棄物処分費、デコレーション経費、各種資材費、Café Tomato や学習院女子大学の出店による売上精算分等が含まれます。

各ブースの詳細は以下の通りです。

ブース	学年	活動	売り上げ	経費	純利益	
保護者 (ブースの売上には寄附、現金売上、Contributionを含みます)	K2	Security patrol	¥20,000	¥0	¥20,000	
	K3	Drinks	¥447,525	¥7,608	¥439,917	
	G1	Face painting	¥104,276	¥0	¥104,276	
	G2	Carnival	¥610,700	¥105,293	¥505,407	
	G3	Australian food	¥225,550	¥0	¥225,550	
	G4 & 5	Bazaar	¥1,157,131	¥35,617	¥1,121,514	
	G6	Air Slider ¹		¥560,250	¥194,400	¥365,850
		Game 1				
		Game 2				
	G7	American food	¥240,750	¥0	¥240,750	
	G8	German food	¥208,797	¥0	¥208,797	
	G9	Chinese & Singaporean food	¥210,001	¥0	¥210,001	
	G10	Mexican food	¥317,544	¥0	¥317,544	
	G11	Indian food	¥426,101	¥0	¥426,101	
	G12	Cakes & Café	¥178,339	¥7,304	¥171,035	
KIPS	お祭り	¥252,475	¥0	¥252,475		
CA	KIST goods sale	¥20,625	¥0	¥20,625		
生徒	G6A	Bowling	¥51,500	¥0	¥51,500	
	G6B	Amazing race	¥19,000	¥0	¥19,000	
	G7A	Laser maze & Nerf target shooting	¥45,625	¥11,031	¥34,594	
	G7B	Blind taste/touch test, Archery game, FIFA 15 competition	¥16,500	¥7,866	¥8,634	
	G8A	Free throw	¥48,280	¥0	¥48,280	
	G8B	Apple taffy	¥44,150	¥0	¥44,150	
	G9A & B	Choco Bananas & Games	¥121,625	¥0	¥121,625	
	G10A & B	Haunted house	¥126,300	¥12,034	¥114,266	
G11A & B	Photos & Sponge toss	¥63,275	¥7,296	¥55,979		
スタッフ	Staff 1	Philippine BBQ	¥259,750	¥51,193	¥208,557	
	Staff 2	Thai food	¥73,375	¥39,801	¥33,574	
	Komaki Family	Crepes & Mojitos	¥205,655	¥0	¥205,655	

¹ G6 Air Slider: 売上にはフリーライドバス売上を、経費にはスライダーレンタル費、フリーライドバス用バンドを含みます。



Festival 2015

Saturday, October 24

理事長よりご挨拶

SRCのExecutive Memberと初会合を持ちました。

11月18日午後4時からPresidentのAngela (G12B)を始めとするSRCの代表者5人 (Rachel [G10B]、Motoi [G12B]、Nina [G11A]、Raj [G12B])と初めての会合を持ちました。5人ともKISTにエレメンタリースクールから在籍しており、その内4人は幼稚園からKISTに通っていることに驚きました。(後で以前のイヤブックを最新のものと見比べ、KISTの歴史を思い、彼らの立派に成長した姿に感慨を新たすると共に、とてもうれしく、頼もしく思いました。)

理事会からは7人の理事の内、小牧理事長、副理事長、Jones学校長、内藤事務局長ならびに奥出スクールカウンセラーの5人がこの会合に参加しました。会合は‘理事会の役割についてSRCの皆さんがどう認識しているか?’という小牧副理事長からの問いかけでスタートし、「ミッションに沿って学校が運営されているかチェックすること」と、SRCのメンバーが理事会の主たる役割を認識していました。

理事会はKISTのミッション(意欲的な生徒に対し、安全で人をはぐむ環境を提供し、国際社会に貢献する人格的に秀でた有能な若者を育成するこ

と)達成を目指し、真剣に取り組んでいること、その一環である進級・進学クライテリアの目的は、生徒の皆さんを落第や退学にさせることにあるのではなく、基準を明確にすることで生徒の皆さんに目標を持って頑張ってもらえることにあること、などの説明が理事側からなされました。

また、うれしいこともありました。私は毎朝校門の横に立って登校してくる皆さんに挨拶をしています。残念なこととその内の約半数近くの生徒が挨拶を返してこないのです。このことを話し、SRCの皆さんに協力をお願いしたところ、交代で校門に立っている彼らもすでに挨拶の重要性を認識していて、プロモーションビデオの作成などの対策を考えていたとのこと。このことに関して今後のSRCの取り組みに大いに期待したいと思います。

今回このような機会が持て、理事会メンバーとSRCメンバーが直接会って話し合ったことで、お互いの役割や活動を再認識する良いチャンスとなりました。そして、これからもミッション達成に向け学校を向上させるために、SRCの皆さんと話し合えることを楽しみにしています。

Yoshishige Komaki

Board President



(L>R) Mr Jones, Mrs Naito, Mr Komaki, Mrs Komaki, Mrs Okude, Angela, Rachel, Nina, Motoi, Raj

エレメンタリースクールニュース

感謝

IB校として、KISTでは学習者像の特質の発達を特に重視しています。PYPIには、PYP Attributes (PYPの要素) と呼ばれる更なる要素があります。国際感覚の育成には、他者、環境、そして学習におけるこれら人間的要素・特質の発達が必須です。PYPIには12の要素がありますが、今回はその中の、**感謝 (appreciation)** に焦点を当てたいと思います

一年でもお祝い事の多いこの時季は、様々な目的でお祝いをし、楽しむことが出来ると思います。この時期、私たちは、家族や友人たちと集い、贈り物の交換をし、食事とともにし、海外へ旅行します。この季節は、すべてのものに感謝を捧げるのにふさわしい時だと思えます。

私を含め、学校コミュニティの多くは毎日の生活に必要なもの以上を有しています。世界を見ると、悲しいことにここ日本でも、多くを持たない人はたくさんいます。チャールズ・ディケンズはその有名な著作、**クリスマスキャロル**で、「この楽しい時季にも、何千もの人が助けを必要としています、何百・何千もの人たちが、私たちがあたりまえと思う快適さを

目的を定めて書く

オックスフォード辞典は、**コミュニケーション**を以下のように定義しています。

「口頭、文書、その他の手段を用いて情報の伝達、共有を行うこと。」

書くことはコミュニケーションです。書くことで、何を、誰に、伝えているのでしょうか？ 私たちは目的を持って文章を書きます。人を楽しませるため、情報を伝えるため、または、人を説得するために書いたりもします。多くの生徒に何故書くのかを問うたら、多分、書くように言われたから、と答えるでしょう。KISTでの目標の一つは、生徒達に書くことに目的意識を持たせることです。私たちは、生徒達が書くことの理由、書いているものの目的、誰のために書いているかを知り、理解することが必要であると考えます。先生のため、言われたから書くというだけでは、目的を持って書いているとは言えませんし、効果的ではありません。

KISTの生徒達が学習しているいくつかの文章ジャンルは：

- 物語文
- 説明文
- 意見文
- 詩歌



これらにジャンルにはすべて異なる目的があります。またその内のいくつかには複数の目的があります。

冬休み中も、お子さんが継続的に文章を書くよう、保護者の方から行って頂ける働きかけはたくさんあります。働きかけを行って頂く際に、書く目的や、誰のために書くのかといったことを意識していただければと思います。日記をつけること



求めているのです」と述べています。

この時季に私たちの学習や労働の成果を祝う時は、自分たちが持っているものへの感謝、必要なものをすべて持ち、欲しいものの多くが満たされていること、を忘れないようにしたいものです。この楽しい季節に、自分たちがいかに恵まれ、幸せであるのかに感謝したいと思います。

ということが良く行われますが、この場合の目的は何でしょうか？誰のために日記をつけるのでしょうか？ 真正の・役に立つ休み中の文章作成課題には以下のようなものが挙げられます。

- 休み中、友達や家族に手紙を書く
- 親戚と共有する物語を書く
- パーティやイベントの指示書・説明書を書く
- 贈り物やお正月のカードなどに添える自作の詩を書く

大人の学習理論によると、大人は課題や目標を定めて学習を行うそうです。子供たちも、有意義で目的のある目標があった場合のほうが良い反応が見られます。子供たちに書くことの奥深さや楽しさを教え、書きたいという気持ち呼び起こすよう、協力していきましょう！

お子さんと、保護者の皆様がすばらしい冬休みを過ごされるとともに、常に読書や書くことを継続されますことを祈っております！

Kevin Yoshihara
Elementary School Principal



K1創造的活動

K1の音楽と図工を通して、どのように感情や創造性を表しているか

私たちの2つ目の探求単元、「どのように表現するか」では、芸術を通してどのように想像し、感情や創造性を発揮するかに焦点を当てています。この単元で、子供たちは喜び、悲しみ、恐怖、興奮、困惑、不満や怒りといった様々な感情について探求しています。自分自身を表現するため、生徒達が自然に培った才能を歌や踊りで表すためのステージが探求単元の間中設けられました。子供たちはまた、クラスにある様々な楽器を試し、様々なジャンルの音楽に触れることを通して自身の感情を発散させる経験をすることが出来ました。

活動の一つとして、生徒たちは音楽を聴きながら絵を描くよう求められました。しかし、この活動で用いられたキャンバスは教室の床で、道具として使われたのは自身の足でした。生徒達は自らの足を使って、すばらしい絵をキャンバスに描きました。音楽を聴くことで、生徒達は踊りながら自身の感情を共有し、表現することが出来ました。生徒達は足を使って描くということを恐れずに挑戦し、またこの手法を受け入れることで柔軟な心を持っていることを示しました。足を絵筆として用い、音楽に合わせて踊りながら自身の感情を表現することでコミュニケーション能力も発揮しました。音楽のジャンルが変わるごとに、生徒達の表現もまた変化しました。ダンス音楽を聴いているときは興奮した様子を見せ、多くの足跡をキャンバスに記しましたが、テンポの遅い音楽になると、その動きがゆっくりし、落ち着いたものになりました。すべての絵の具が乾いた後で、生徒達は自身のお気に入りの部分を選び取り、自身の作品として額装しました。

Claire Yoneyama
K1 Class Teacher



PYPニュース

PYP 保護者説明会

11月24日(火)の夕方にエレメンタリーでは「評価」についてのPYP保護者説明会を開催いたしました。これは今年度2回目の説明会で、約40名の保護者の皆様にご参加くださいました。このワークショップ形式の説明会は保護者の方に様々な評価方法をご理解いただけるよう実施いたしました。ワークショップでは、エレメンタリースクールでの評価の定義や、その目的についてもお話させていただきました。参加くださった保護者の皆様には、ワークショップの始めに「抜き打ち小テスト」を受けて頂くことで、生徒の気持ちを体験して頂きました。この体験を通して、保護者の皆様には生徒が感じることや思うべきことだけでなく、教師がどのように試験結果を用いているか、をより良くご理解いただけたと思います。また、説明会ではMr Vodden (G2A)、Ms Chung (K3B)、Ms Aya (K2)による、異なる学年でどのような評価方法が行われているかについての発表も行われました。

このような情報提供型ワークショップは、生徒の教育方法や指導法を保護者の皆様に、より良く、意義深い形で理解いただける機会だと思います。保護者の皆様にはワークショップ中や、その前後に自由にご意見やご質問をしていただくことによって、学校アドミニ、教員、保護者間の絆をより強固なものにすることができると感じております。

PYPの教育法や、「最上の」教育実践などについての説明会は、毎学年度の秋期に2回開催されます。来学年度も同時期に開催予定ですので、是非スケジュールを調整頂き、ご参加いただけますようお願いいたします。

Clay M. Bradley
Elementary School Vice Principal / PYP Coordinator



K2遠足

最初の探求単元、「私たちは誰か」で、K2は五感と、感覚器官を通して得ることが出来る情報について学びました。クラスでの十分な探求と学習の後で、K2は等々力溪谷への遠足に出発しました。子供たちは視覚や聴覚を触発する様々な要素の探求を行い、その後、探求結果をベン図で振り返りました。お天気にも恵まれ、子供たちやお手伝いの保護者の皆様も、そしてもちろん教員も、自然と、そこで聞くことの出来る様々な音に「耳を澄ませる」ことを楽しみました。

Aya Kurosaki
K2 Class Teacher



エレメンタリーELS

オンライン・リサーチの支援 イメージ・画像や質問を用いてサーチを成功させる

概念を基にしたカリキュラムと、探求学習中心のPYPでは、「更に奥深い」探求サイクルにおいて、同じクラスの生徒達が個別・グループでのリサーチの際にそれぞれ全く異なる方向性に進んでしまうことがあります。UOIの一環としてのリサーチはエレメンタリーの低学年で開始し、PYPの最後のExhibitionを前にした5年生ではより独立したものになります。リサーチは、しばしばインターネットを用い、多くの生徒がほぼ自動的にGoogle検索を行います。しかし、これは、ほぼ最初の段階で膨大な情報の迷路に迷い込む元にもなるのです。

学校、家庭のいずれにおいても、生徒達のオンライン・リサーチを支援するために、まずはKIST図書Moodle page上の、学校が購読している教育サイト(BrainPOP や Encyclopedia Britannicaなど)や、生徒向けのサーチエンジンリストをご覧ください。しかし、子供向けのサーチエンジンを使用している場合でも、あまりに膨大な情報量のため、リサーチが上手くいかないこともあります。5年生にとってさえそうなのですから、低学年の生徒にとっての困難は計り知れません。

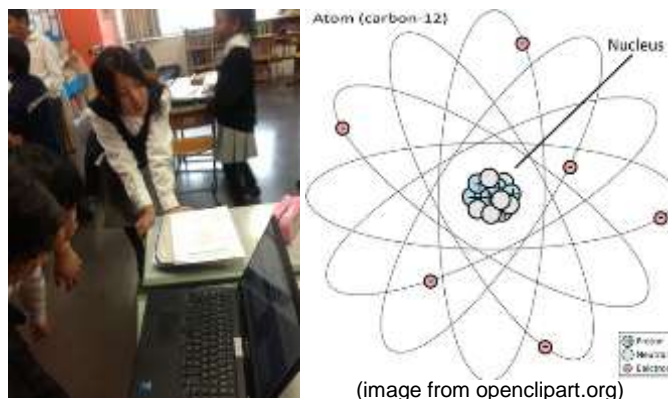
お子さんのリサーチが上手くいくためのヒントの一つ。どのようなサーチエンジンを使用していれば、まずは「web」ではなく「image/画像」で検索を始める事をお勧めします。通常のGoogleサーチでさえ、まず「画像」検索を選択することでより使いやすくなります。お子さんのリサーチに関連がある画像を1-3個選ぶのを手伝ってあげてください。しばらく画像を観察し-次がとても重要なのですが-それらについてお子さんに質問してみてください。後で探すべき情報を予測できます。質問の内容としては:何が見える?



今見えたものについて何を知っている?何が起きていると思う?次に何が起これると思う?符号・標語又はキャプションがある?これらのキーワードは何を意味していると思う?キーワードと、リサーチする内容との関連は何だと思っ?これらの画像の類似点・相違点は?

上記のような質問をすることによって、画像について考えたり、議論したりすることが出来ます(学校では英語、ご家庭では母国語で)。これを行うことで、私たちの脳は、インターネットのリサーチや見つけた文書の内容を理解しやすくなります。

Rachel Parkinson
Elementary ELS Coordinator / G5 ELS Instructor



Serena, Ishan, Hibiki (G5B) がGoogleの画像検索で電気エネルギーのリサーチを始めたところ。ここで示された画像に類似したものについて話し合った後で、文書やビデオサイトでのリサーチを開始しました。

スクールカレンダー2016-2017年度



ご家族でのご旅行計画などの際のご参考として、2016-2017年度の重要な行事予定を右記に記載いたしました。

各ご家庭には記載された始業日までに東京に戻られ、お子さんが登校できるよう旅行日程等の調整をお願いいたします。

2016-2017年度カレンダーの完全版は2016年6月に配布されます。

- **新学年度生徒始業日**: 2016年8月15日
- **シルバーウィーク休暇**: 2016年9月17日～25日
- **KISTival**: 2016年10月22日
- **秋期休暇**: 2016年10月23日～30日
- **冬期休暇**: 2016年12月17日～2016年1月9日
(生徒の始業は2017年1月10日からです)
- **春期休暇**: 2017年3月25日～4月2日
- **ゴールデンウィーク休暇**: 2017年4月29日～5月7日
- **生徒の最終登校日**: 2017年6月14日

Backward Design Planning

伝統的な授業計画では、教師はまず指導すべき内容に着目し、それに基づいて授業計画を立てていきます。**Backward design**では、教師はまず望ましい**学習上の到達目標**をたて、それに基づいた評価を計画し、最後に、授業計画を行います。「物語は考えを創造的に表現する手段である」という中心的な考えを2年生に指導する際、よりふさわしいのはどちらの計画方法なのでしょうか？

2年生の私たちはどのように自己を表現するかという探求単元ではbackward designを採用しました。まず、学習の最終到達目標が定められました。その結果、生徒達が以下を理解することが望ましいと判断されました：①良い物語には構成がある（形式）、そして②物語は異なる視点で読まれる・理解される（価値観）。次に、課題が決められましたら、よく知られた物語をどのような方法でもよいので伝える・物語ること、です。このプロジェクト（課題）開始時に求められる要素をまとめた評価基準が生徒達に配布されました。形式の概念がしっかり理解されていることを確認するため、生徒達には（グループで）起承転結のある物語を書くことを求めました。価値観の概念がしっかり理解できていることを確認するため、生徒達には物語の（語り手の）視点を変えて語る事を求めました。最初の数週間の授業は、生徒達に焦点を当てた概念を理解してもらうことを目的として行われました。その後、生徒達は歌、演技、バレエや冒険ゲーム等、自身が関心のある形式で物語を語る・表現するためにグループを作りました。準備や練習に数週間をかけ、生徒達は自分たちの作った物語を発表し、その後、評価基準に従って達成度の自己評価及びピア評価（同級生による評価）を行いました。

このような、事前にしっかりと形式を定めた内容や形式にとらわれない探求単元において、教師はどちらかという（生徒にすべきことを指示する）指導者より、（生徒の手助けを行う・世話人）ファシリテーターとしての役割を担います。このような学習環境において、生徒達は計画、準備、そして発表というすべての段階での自主・自立性を有します。構成が不十分な物語を作ってしまった生徒は観客の前で発表する際に、その結果どうなるのかを肌で感じる事が出来ます。このような実体験に基づく理解こそ教員として生徒達に望んでいることです。探求の成果物ではなく、その過程に着目することで、生徒達は身をもって達成感（成功体験）や失敗を学ぶことが出来ます。このような経験は振り返り・反省、ひいては成長に繋がるのです。

Timothy Vodden
G2A Class Teacher



キーボードのKateと、Alyssa, Carrera, Emma, Sara, Kanade がバレエ、白鳥の湖の解釈を発表するところ。



G2、G7 合同 Ephemeral Art 「刹那の芸術」プロジェクト

地域社会や多くの動的な、またエフェラル・アーティスト (Andy Goldsworthy、Motoi Yamamoto、Chris Drury、Rosalie Gascoigne、Dale Chihuly や Richard Long) に触発された合同アートプロジェクトの一環として、2年と7年の生徒達は清澄公園を探訪しました。



生徒達は自然の素材を使った造形作品のため、周囲から着想を得よう求められました。この小遠足は、生徒達にとって、自身の作品とその素材を得るために周囲をじっくりと観察し、探求するためのすばらしい機会を提供してくれました。



2年生は、同級生や7年生と一緒にまず紙の上に色々な意見を出し合い、実際の制作前に造形の計画を立てました。グループによっては直接制作を開始することを望みましたが、それぞれのグループが独自の方法でこの課題に取り組みました。



生徒達は展示場所(西館ホワイエ)で、作品を以下のどの形態で展示するかについて意見を求められました。

1. 吊り下げる
2. 壁に掛ける
3. 床の上 (壁に寄りかからせる) に置く

また制作中に美術の要素(色、形状、線、模様、質感、濃淡、点、など)についても考えることを求められました。



芸術作品の**変化**が今回の課題の主要テーマであり、生徒達はこの点についてよく考えることが求められました。そしてその**理由**、なぜ芸術作品は屋外室外を問わず、**変化・劣化**するのか、そして**実際**、芸術作品は**不変・不滅**でなくても良いのだ、ということ学びました。

造形物が**変化・劣化**する前に記録する方法として写真を取ることが検討されました。またこの活動の重要な要素の一つは**成果物よりもそこに至る過程**を大切にすることでした。



この課題に欠かせない要素として、**協力し、コミュニケーション**をとるということが挙げられます。生徒達は造形の際の困難を克服するために互いに協力し合い、考えを柔軟に修正し、この課題を通して**挑戦者**であり続けました!

Helen Campbell and Emma Justice
PYP and MYP/DP Visual Arts Teachers

セカンダリースクールニュース

1学期末試験がもうすぐ始まります

12月14日(月)から12月16日(水)まで、9年生から11年の生徒は全員、学習している大多数の教科の試験を受けることになります。



試験は各教科2時間で、生徒の理解力を様々な方法で問うものです。教科ごとに、最もふさわしい方法で試験を行います。MYPの9年生と10年生は試験で、評価基準に基づいた包括的評価課題を行う機会が与えられます。11年のDP生は実際に12年生の終わりに受ける試験問題に沿った(模擬)問題に取り組むことで、引き続きDPへの準備をしていきます。

試験は、生徒達が集中してこれまで学習してきたことのとめを行う良い機会です。各学年の試験スケジュールは以下のとおりです。

Grade 10 Semester 1 Exams: December, 2015

Day	Subject	Room	Time	
			From	To
Monday, December 14	Exam Revision 10A (Room 303)/10B (Room 304)		8:55	9:50
	10A Individuals and Societies	303	10:00	12:00
	10B Individuals and Societies	304	10:00	12:00
	Exam Revision 10A (Room 303)/10B (Room 304)		12:05	13:00
	Lunch		13:00	13:30
	10A English Language and Literature	303	13:40	15:40
	10B English Language and Literature	304	13:40	15:40
Tuesday, December 15	Exam Revision 10A (Room 303)/10B (Room 304)		8:55	9:50
	10A Japanese	303	10:00	12:00
	10B Japanese	304	10:00	12:00
	Exam Revision 10A (Room 303)/10B (Room 304)		12:05	13:00
	Lunch		13:00	13:30
	10A Math	303	13:40	15:40
	10B Math	304	13:40	15:40
Wednesday, December 16	Exam Revision 10A (Room 303)/10B (Room 304)		8:55	10:00
	10A Science Paper 1	303	10:00	12:00
	10B Science Paper 1	304	10:00	12:00
	Regular classes resume Period 4 on Wednesday			



Grade 9 Semester 1 Exams: December, 2015

Day	Subject	Room	Time	
			From	To
Monday, December 14	Exam Revision 9A (Room 305)/9B (Room 306)		8:55	10:00
	9A Japanese	305	10:00	12:00
	9B Japanese	306	10:00	12:00
	Exam Revision 9A (Room 305)/9B (Room 306)		12:05	13:00
	Lunch		13:00	13:30
	9A Math	305	13:40	15:40
	9B Math	306	13:40	15:40
Tuesday, December 15	Exam Revision 9A (Room 305)/9B (Room 306)		8:55	10:00
	9A Science	305	10:00	12:00
	9B Science	306	10:00	12:00
	Exam Revision 9A (Room 305)/9B (Room 306)			
	Lunch		13:00	13:30
	9A Individuals and Societies	305	13:40	15:40
	9B Individuals and Societies	306	13:40	15:40
Wednesday, December 16	Exam Revision 9A (Room 305)/9B (Room 306)		8:55	10:00
	9A English Language and Literature (Periods 2 and 3)	305	10:00	12:00
	9B English Language and Literature (Period 2 and 3)	306	10:00	12:00
	Regular classes resume Period 4 on Wednesday			



Grade 11 Semester 1 Exams: December, 2015

Day	Subject	Room	Time	
			From	To
Monday, December 14	Exam Revision 11A (Room 301)/11B (Room 302)		8:55	9:50
	English Language and Literature HL	301	10:00	12:00
	English Language and Literature SL	302	10:00	12:00
	Exam Revision 11A (Room 301)/11B (Room 302)		12:05	13:00
	Lunch		13:00	13:30
	Japanese A Language and Literature (HL/SL); Japanese B (HL)	301	13:40	15:40
	Japanese Ab initio/ Japanese B (SL)	302	13:40	15:40
Tuesday, December 15	Exam Revision 11A (Room 301)/11B (Room 302)		8:55	9:50
	Math HL/ Math Studies	301	10:00	12:00
	Math SL	302	10:00	12:00
	Exam Revision		12:05	13:00
	Lunch		13:00	13:30
	Biology (HL/SL)	301	13:40	15:40
	Physics (HL/SL) / Environmental Systems and Societies (HL/SL)	302	13:40	15:40
Wednesday, December 16	Exam Revision 11A (Room 301)/11B (Room 302)		8:55	9:50
	Economics (HL/SL)	301	10:00	12:00
	Geography (HL/SL)/ History (HL/SL)	302	10:00	12:00
	Exam Revision: Chemistry and Music Students (Room 301) / Art Students (Art Room)		12:05	13:00
	Chemistry (HL/SL) / Music (HL/SL)	301	13:40	15:40
	Visual Arts (HL/SL)	Art Room	13:40	15:40

Grade 7 宿泊校外学習...

11月19日(木)から20日(金)にかけてG7の生徒たちは静岡県富士宮市まで宿泊校外学習に出かけました。この校外学習に先立ち、生徒たちはサイエンスのクラスで手入れがされていない人工林の問題など環境や木について学び、校外学習では実際にその問題解決に手助けをする活動を行いました。「森の蘇り」(<http://mori-no-yomigaeri.jimdo.com/>)という、学校コミュニティの保護者からの紹介で知る事となったNPO法人のスタッフの方々と活動を行いました。手入れが必要な森を良い状態に保つべく頑張り、実際に木を切り倒しました！生徒の中には、“木を切り倒すと聞いて、環境に悪い事なので何かの間違いかと最初思いました”ですが、“実際の活動を通して木について学び、間伐活動を行う

事によって元気で健康な木が育つ事に貢献できました”という生徒もいました。G7の生徒達がとても良く協力して行動できることに感心しました。

Shun Nakade
Service Coordinator



校外学習に関するG7の生徒数名のコメントです。

Sonakshi (G7A)

間伐活動 (木曜午後)

キャンプ初日に、森へ行きました。そこでは多くのことを学びました。日本は世界で第二位の森林面積を持つということや、日本の森林の20%だけが国内で資源として使われるということなどです。残りの80%は南アメリカやその他の国々に輸出されます。私たちはまず、木の伐採方法を学び、その後、運び方を学びました。私たちは焚き火に使えるように、木の枝を鋭いのごり(なた)で落としました。休憩の後で、丸太を定められた場所に運びました。プロのきこりの皆さんのお手伝いが出来、自然の中で長い時間をすごせた貴重な経験でした。

Michiko (G7A)

森林保護区での作業 (木曜午後)

G7宿泊学習の初日に、私たちは全員森に入り、3時間程森林保護区のスタッフの皆さんのお手伝いをして過ごしました。そこで、私たちは間伐を体験したり、森林について多くを学びました。とても一生懸命働かなくてはならず、大変な作業でしたが、とても貴重で、すばらしい経験でした。私たちは大都市で生活し、森に入ったことのある人は私たちのうちほんの少数です。そして間伐を体験したことのある人はいませんでした。私たちは、木の切り方(私のグループは2通りのやり方を習いました)、切るのにかかる時間、そしてそれがどれほど大変な作業かを学びました。私は最初、木を切ることはあまり大変ではないと思っていましたが、完全に間違っていました。林業の方はまず、木が完璧に切り倒されるようにどこをどのように切るのかを計算してから作業を始めるのです。私たち皆にとって、これは全く新しく、すばらしい体験で、多くのことを学びました。このキャンプで、普段教室で学ぶことの出来ない新しいことを学ぶことができました。

Thilo (G7B)

夜の活動 (木曜夜)

夜木曜の夜には7年生全員がクイズ大会に参加しました。クイズでは色々な分野の知識と、チームワークが問われました。苛立ちで燃え尽きてしまった何人かを除き、私たちの多くはクイズを楽しみました。クイズでは数学、地理、その他色々な問題が出題されました。数学の回答率が良かった数名を除き、数学や地理の問題では殆ど全員が苦戦しましたが、最後の雑学問題では私たちの無駄な知識へのあくなき探究心が役に立ちました。私は全員、最後の、シュレックから双極融合まで様々な問題が出される雑学ジャンルが一番楽しんだと思います。最後には全員楽しみ、チームワークの有効性を実感したと思います。



次のページに続く

前ページの続き

Maki (G7A)

湖の周囲散策（金曜朝）

私たちは全長3.5キロ以下の湖の周囲を散策しました。湖は山に囲まれ、山の木々の一部は冬に向かい、紅葉が始まっていて、すばらしい景色でした。散策路の一部には湖面で泳いでいるアヒルが見えるところがありました。また、木々がたくさんある場所もありました。私たちは歩きながら、どの木を間伐すべきかについて話し合いました。私たちは、木曜日に森林保護区に行って木について色々教えて頂き、切り倒すべき木についてもスタッフの方に伺っていたので、どのような木を切り倒すべきか知っていたのです。

Ririka (G7A)

湖周辺の散策

7年生は宿泊先近くの湖周辺のハイキングを楽しみました。湖の周りを取囲む山々や、道を覆う紅葉した落ち葉など、すばらしい景色を堪能しました。水晶のように透過した湖面はきらきらと輝き、その中で小さな水鳥が優雅に泳いでいました。私たちの宿泊先にも、山にも、散策した遊歩道沿いの木々にも膨大な量の、赤、オレンジ、黄色に紅葉した葉がありました。紅葉した葉は、とても目を引く、美しいもので、色彩があまりに鮮やかでまるで夢幻の世界にいるかの様でした！色づいた葉や、山々の色彩に目をやりつつ遊歩道を歩く私はとても平和で、穏やかな気持ちになりました。私はこの散策と、宿泊学習をとても楽しみました。このようなキャンプにまた是非参加したいです！

Aditya (G7B)

7年生キャンプの感想

今回の宿泊学習は非常に楽しいものでした。楽しいことをたくさん行い、すばらしい時間をすごしました。朝、晩と多くの人が体験したことのない温泉のような場所に入浴しました。温泉に入るととてもリラックスすることが出来、また、とても楽しめました。静岡への往復のバスでは、旅行に行き、異なる環境と一緒に経験する、という私たちと同じような体験を歌った、“Little Einstein”を合唱しました。私たちは大きな食堂で一緒に食事をするという初めての経験をしました。この一泊二日は学年全員がより親しくなれたすばらしい経験でした。

Grade 4 神話絵画

9月に、4年生は、3年次の終わりごろから着手していたオーストラリアのアボリジニ神話から発想を得た絵画プロジェクトを完成させました。

生徒達はそれぞれの象徴となるものを選択し、その足跡を印すための地形・場所を選びました。



このプロジェクトはまず自身の靴を観察し、それを描くところから始まりました。その後、靴底の形や質感、模様を模写しました。この靴底のデザインは印刷のためにポリエステル版に転写されました。

生徒達はこのプロジェクトで、色、補色や類似色についての知識を活かしました。

みなさん、よくがんばりました！

Helen Campbell
PYP Art Teacher



セカンダリー美術

ポリゴン・ピクチュアズ講演と、スタジオ訪問

今学期、美術専攻の生徒達はKISTオフィスのMs Wakasaの手配でポリゴン・ピクチュアズの方にいらして頂き、お話を伺うという機会を得ました。DP生徒達はデザインスタジオで勤務するのに求められるものや、スタジオの様々な職種について学びました。またイラストやアニメーション作品をはじめとするスタジオで制作された様々な作品を見せてもらいました。



訪問して下さった方は、ポリゴン・ピクチュアズのような世界の現場で制作を行うスタジオでは、国際的な環境で学び、複数の言語を理解することが出来るKIST生のような人材が不可欠であると話してくださいました。通翻訳能力や



Ken (G11B)



Isabella (G11A)



技術的なソフトの知識もこのような環境で働くには非常に重要であるそうです。ですから制作現場で働くことは絵が描ける人だけの特権ではないのです!

数名の生徒は実際にスタジオを訪問し、プロのモデラー・アニメーターのお話を伺うことも出来ました。また、実際にソフトを使い、キャラクターを制作することも体験できましたが、これは見た目よりずっと難しい作業でした!訪問は予定よりかなり早く終了することとなってしまいましたが、スタジオを訪問し、プロの働く環境と、制作現場の雰囲気を感じ、アニメーション制作の様々な側面を知ることは今日のデザイン市場・産業を理解するうえで非常に興味深く、貴重な経験でした。またポリゴンの方がKIST美術部門にいらして下さる事を願っています!

Emma Justice
MYP/DP Visual Arts Teacher

Artscape 2016 ロゴ・コンテスト

KISTは毎年2月に開催され、関東地域のインターナショナルスクール生の優秀作品を展示するArtscapeの、2016年公式ロゴ・コンテストに多くの作品を出品しました今年度は、G9AのChae Hyun がロゴデザインコンテストで全出品作品中第3位という快挙を達成しました。これは東京近郊から出品される膨大な作品数を考えると本当にすばらしい結果です!彼女の受賞作品はこちらです:



Chae Hyun (G9A)

あまりに質の高い作品が多かったため、KIST内部で上位三作品を選出し、これらの出品者にはハウスポイントと、美術部門からささやかな副賞を授与しました。皆さん、よく頑張りました!



Nishi (G6A)



Varsha (G9A)



Felix (G12A)

DPの体験談

私のMYPからDPへの旅路

"Diploma Programme...
more like Depression Programme"
(「ディプロマ・プログラム...
というより神経衰弱プログラム」)

も し、あなたが今MYPにいるなら、多分上記の台詞を聞いたことがあるでしょう。なぜなら、私自身この台詞をMYP時代に聞いたことがあるからです。

私は現在11年生に在籍している Hardik といいます。約3ヶ月前にDPを開始しました。そして、この間、DPについていくつかのことに気づきました。私自身、DPを語るのに最もふさわしい人間ではないかもしれませんが、それでも、何かに役には立つと思います。DPでの体験談はかなり誇張されたものです。DPについて聞くことの半分近くは都市伝説のようなものです。ただ、間違いのないように言っておきます。DPは簡単なものでは決してありません。けれども絶対に達成不可能なものでもありません。

DPを始めた時、私は不安でいっぱいでした。私はこれまで殆どすべての教科であまりいい成績をとっていませんでしたし、特別な才能があるわけでもありませんでした。その上、DPがまるで悪夢であるかのような噂を聞くことで、事態は更に悪化していきました。私は本当に怖くて仕方ありませんでした。この2年間で私の人生の方向性が決まるのです。自分が何をどうしたいのかも分からなかったのです。これは非常に大きなストレスでしたし、過去の成績からも明白なように、落第するのだろうという確信のようなものさえありました。当時私は、これまでの様にだらだらした生活を続けるか、出来る限りの努力をして勉強するかの分岐点にいるのだと感じました。

上記に加えて、私には、DPではどのように勉強すればいいのだろうか？何を勉強するのか？など、まだいくつかの疑問がありました。DPは自立・独立した学習を元にしていてよく耳にしていたのですが、正直なところ、何をしたら良いのか分からず、困惑していました。でも、時間が経つにつれ、私は独りではないのだと気づきました。確かに、文献を読んだり、問題を解いたりするのは一人でやらなければなりませんが、それでも、最終的には先生や友人たちに助力を求めることができるということを知っています。これまで、最も私の助けとなっているのは、質問をすることです。多くの人たちが質問することをためらいますが、私にはなぜなのか理解できません。多くの学習内容には関連があり、繋がっているのです。一つの概念や内容が分からないと、他にも影響が出てきます。ですから、分からないことは早く解決してしまったほうがずっと楽なのです。このため、私は特にDPでは、質問することが鍵だと思っています。

色々なことを聞いていると、DPはとても難しく思えるかもしれませんが、でも、明確な目標を持ち、決してあきらめず努力し続け、自分の周りにあるものを最大限に活用すれば、誰でも成功できると私は確信しています。

Hardik (G11B)



Grade 11とディプロマ・プログラム

今 学年度が始まる前に、私はDP生の先輩たちにディプロマ・プログラムの恐ろしさについて、「これから2年間は眠れないよ」とか、「Depression Programme: 神経衰弱プログラム」と呼ばれるには訳がある」など警告されていました。私たち、MYPの最高学年でありながら、所詮MYPに過ぎない10年生にとって、DPは、誰もがその存在を知りながら、決して足を踏み入れようとはしない、道の向こうの、廃屋のようなものでした。もちろん、私たちは、ひとりきりで考えるにはあまりに不安な2年先のDPについて、よく皆で話し合っていました。でも、私のDPでの教科選択について話すと、クラスメートは笑い、先生たちは目を丸くして、「本気で？」というように私を見ました。私たち皆、あまりに未知のものであるが故にDPに恐れを抱いていました。

11年生になって学期を過ごすに連れ、何故DPがこれほど難関だといわれるのかが分かってきました。もちろん、授業そのものも非常に難しいです：授業や課題で横道に逸れたり、ちょっとサボったりしている余地などありません。すべての授業が重要なのです。SL(標準コース)かHL(上級コース)かにかかわらず、課題に求められる時間と労力はこれまでの2倍です。DP前は、深夜までに課題を終えることが出来ていました、今は、ずっと課題に取り組んでいるか、もしくは一旦仮眠をとった後に勉強をするために起き出したかにかかわらず、明け方に起きています。しかし、今、私は次第にDPの悪名高い困難は、学習面におけるものではなく、勿論それもまた別の大変さではありますが、プログラムでの学習に含まれる精神的、感情的な緊張感や負担によるもの大きいのだと悟りました。永遠に続くかのような包括的評価や、絶え間ない新しい知識の波で、余裕などなくなります。先生方が繰り返し、時間管理と効率性の重要性を強調されてきたのかが良く分かります：これらのスキルはDPの果てしない道程において、より私たちを有利にしてくれるものなのです。

今、私たちに課されている学習上の重荷にかかわらず、DPにおいて私が楽しんでいる側面もあります！私は関心のある教科についてより深く学ぶことを心から楽しんでいます：例えば、人文教科では20世紀の歴史に焦点を当てて学んでいます。また、DPの学習を通して、詳細なノートをとるなど、学習方法や学習態度も向上しています。最後に、DPを通して私たちの学年はより強固に纏まったと感じています：全員が同じ困難に立ち向かっているのです。お互いを可能な限りサポートしているのです。DPの困難にも、先生方や、家族、友人たちの精神的なサポートのおかげで立ち向かうことができるのです。

私たちの多くにとって、ディプロマ・プログラムは学業的にも体力的にも過酷なものです。これから二年間の皆の幸運を祈ります！

Hana (G11B)



ファミリーハンドブック

最新版のファミリーハンドブック(以前はスクールハンドブックと呼ばれていたものです)を学校ウェブサイトから閲覧して頂けるようになりました。今回、ハンドブックを簡単にアクセスいただけ、また更新も容易なオンラインの形でご提供できるようになりました。いくつかのページは未だ更新中ですが、大部分は既に完成し、皆様にアクセスして頂けます。

ハンドブックは皆様に学校の方針や手続き、期待値についてご理解いただくために作成されました。このハンドブックで、学校コミュニティの全てのご家庭に従っていただきたい校則や規則をご確認いただけます。これにより、皆様と私たちが生徒の学習においてより良い協力体制を築けることを願っています。ある特定の場面での手続きや、とるべき手段についてのガイドとしてご利用いただけますことを願っています。記載された手続きに従っていただくことで、学校の日々の円滑な運営にもご貢献いただけることと思います。

ハンドブックは下記、学校ウェブサイトのコミュニティセクションからアクセスして頂けます。

<http://www.kist.ed.jp/ja/node/922>



日本将棋連盟ご来校

10月2日(金)に日本将棋連盟主催による将棋日本シリーズJTプロ公式戦/テーブルマークこども大会 東京大会、国際文化交流授業として、将棋ワークショップが当校にてG5生徒を対象に開催されました。3名のプロ棋士も来校し、将棋の歴史、将棋ゲームの礼儀や文化等興味深いお話しをしていただきました。その後、実際に初心者向けのゲームを教えられ皆で対戦しました。初めて将棋に触れる生徒も多く、生徒は楽しい時間を楽しむことができました。このイベントには多くのメディア(新聞社、テレビ)も取材に来ていて、その中の数社がイベントの様相を放送しました。

また、学校は将棋協会から10組の将棋セットをプレゼントしていただきました。

4	3	2	1	
王	将	卒	歩	一
卒				二
				三
			歩	四
銀	金	角	玉	五



KIPSニュース



みなさんこんにちは。もうみなさんご存知でしょうか？来年度からKIPSのK1とK2クラスは、KISTのK1とK2クラスと合併します。そして、森下に新しく0歳児から2歳児までのPreschoolが、'KIPS'として開校されます。今月号のThe Cometでは、来年度より、新校舎へと移る、KIPSのNurseryクラスの様子を少しのぞいて、紹介してもらおうと思います。

ナーサリーの皆もようやくクラスに慣れて来たようでお母さんと離れても泣く事がなくなりました。初めての母子分離は二歳児さんには大きなステップでした。ナーサリーのクラスはハロウインのことを学び、今は野菜の名前を勉強してます。最近では自分たちで野菜の種を植えて、ベランダにミニ家庭菜園をはじめました。苦手なお野菜になれるためにも今度サンドウィッチパーティーも予定してます。また、ウィンターコンサートの練習もしています。ナーサリークラスの子ども達にとって、初めての発表会です。みんなの活躍を是非見てください。

Tina Aya Nishihara
Nursery Class Teacher



乳幼児にとって、保護者の方と別れて、Preschoolで安心して過ごせるようになるまでは、どうしても時間がかかります。KIPSのNurseryクラスでは子ども達が、楽しく過ごせることができるよう、色々な工夫をこらして環境を整え、子ども達を迎えています。子ども達の成長・発達の状態をきちんと把握している大人のサポートや、その大人たちとの関わりを通して、乳幼児は言葉を取得したり、色々なことを学んだりしていきます。Nurseryクラスは2歳児のクラスですが、来年度からはKIPS Preschoolでの年長児となります。12月16日水曜日にKIST GYMで行われる、彼らにとっての初めての発表会である、KIST Elementary Winter Concertでの彼らの演技を見るのが待ち遠しいです。師走のお忙しい時期ではありますが、お時間に余裕のある方は、KISTでの最年少児である彼らの発表をご覧にお越しください。

Eri Ozawa
KIPS Head Teacher

オフィスアップデート

駐輪について

KISTの駐輪場はスペースが限られています。学校の正門脇の駐輪場は生徒及びスタッフのためのものです。保護者の方もお子さんの送迎時やSSP、面談や会議などの際にはご利用いただけます。しかしながら、通勤の際の駐輪場所としてはご利用いただけませんので、学校来校時以外のご利用は控えて頂けますようお願いいたします。



学費のお支払について

2015年度(2015-2016 School Year) 学費の第3回目お支払期限は12月15日です。お支払いがお済みでない場合は、支払期限までにご利用いたします。



2016年1月からのスクールランチオーダーの変更について

1月からのスクールランチオーダーの曜日変更・キャンセルの申し込み受付は、12月18日までとなっています。



曜日変更・キャンセルをご希望の方は、必ずフォームを提出してください。申し込み締め切り後の受付はいたしませんのでご了承ください。

フォームはウェブサイトにございます。

<http://www.kist.ed.jp/files/pdf/enrolment/School%20Lunch%20Order%20Form.pdf>

アクセサリーの着用について

小さめの腕時計を除き、生徒によるアクセサリーの着用は一切認められておりません。透明のイヤリングも同様となります。ピアスの穴を開けられる際は、長期休暇のはじめにご予定いただくなど、登校時には外していただく必要がありますので、ご理解ください。

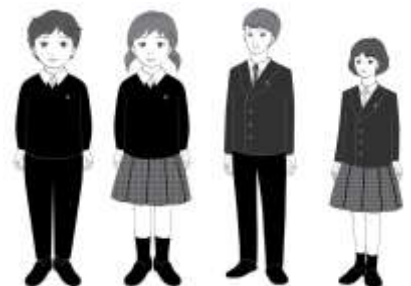
制服

すっかり寒くなり、冬物アイテムの出番になってきました。ニット帽子、手袋、マフラー、ネックウォーマー等。



冬物アイテムは黒色無地のみ着用が許可されています。黒以外の色の物を着用している生徒は買い替えてください。なお、これらのアイテムは学校でも安価で販売しております。

また、最近学校指定以外のコートや、トレーナー等制服以外の物を着てくる生徒がいますが、学校制服以外の着用は禁止です。



図書室ニュース

KISTでの「読書」文化の促進

今年で5年目になります、**Drop Everything And Read** イベントへのコミュニティのご参加に感謝いたします。今年もイベントは大成功に終わりました! イベントの促進のために、library elves (図書室の妖精; ボランティア)を含むエレメンタリー・セカンダリーの生徒を初めとして、サクラメダルBook Bowlチームのメンバー、SRC役員や各ハウスの代表がDEARポスターのモデルを務めました。これら読書推進のためのポスターは両方の校舎に掲示されました。LMCでの撮影にご協力いただいた**Michael (G11A)** と司書助手の**Ms Erika**に感謝します。



DEAR月間は、銀河系の彼方からの特別ゲストの登場で幕を開けました。ダースベーダーや、お供のストーム・トルーパー、警備員、Jawa一族がパレードに参加してくれました。KISTの啓発活動に参加して下さった **501st Legion Japanese Garrison** の皆さんに、感謝いたします!

Garrison の皆さんに、感謝いたします!

KIST生たちも、スターウォーズからのゲストに負けない仮装を見せてくれました。生徒達は双子の仮装をしたり、フェイスペインティングを施したりと、想像力と努力の結果すばらしい仮装を披露してくれました。仮装コンテストの審判の、Ms Helenと Mr Johnは優勝者を選ぶのに苦労していました。受賞した**Saanvi (G5A)**、**Kota (G5B)**、**Hina (G4B)**、**Ethan (G4B)** そして **Kian (G4B)**おめでとう。先生たち自身も、仮装することで、イベントに花を添えてくれました!



Saanvi (G5B) Kota (G5B) Hina (G4B) Kian & Ethan (G4B)



DEARブックキャラクターパレード

Mrs Christian、Mr Archibald そして Mr Grant が**CA図書委員会**から今年の最優秀仮装賞に選ばれました。受賞者たちは図書室司書から副賞が渡されました。当日の写真は [Library Moodle pages](#)からご覧いただけます。

DEAR月間の間、KIST生、教員、スタッフは全員**Drop Everything And Read (DEAR読書、すべてを忘れて本を読む)**に参加しました。学校全体が20分の間、静かに読書を楽しみました。参加者は絵本、雑誌、小説、グラフィックノベルを始め、あらゆるジャンルの本を楽しみました。これからも毎日の読書を継続してくれることを望んでいます。



低学年の生徒達にも本に親んでもらうために、エレメンタリースクールのフォワイエで、K1, K2, K3, G1, G2を対象とした**保護者によるDEAR 読み聞かせ**を行いました。保護者ボランティアの **Mrs Sunanda (K3B Rihannaのお母様)**、**Mrs Ai (G6B Andrewのお母様)**、**Room on the Broom**小道具つきで読み聞かせて下さった**Mr Nick (G3B Sebastianのお父様)** ありがとうございます!

前ページの続き

また、最後に、もはや古典とも言えるDr. Seussの*Green Eggs and Ham*!の読み聞かせに参加して下さったのは、我らが**Mr Jones**でした。生徒達は読み聞かせを楽しみ、学校の学習における読書の大切さを理解できたと思います。



Mrs Sunandaの読み聞かせ

これから予定される図書活動

セカンダリーの日本語科と協力し、2016年度サクラメダルの課題図書を読んだ6年生から12年生を対象とした**Sakura Book Trailers Contest**が行われます。KIST校内のSakura Book trailer 参加締め切りは**2016年1月16日**です。



2016年2月19日の**World Cultures Day**に予定されている活動は以下のとおりです。

- 民族衣装パレード
- 保護者による、母国語での読み聞かせ (4名の保護者ボランティアが必要です!)
- 生徒の代表者による母国語指導
- 生徒によるセミナー
- MPRでの寄付を目的とする写真撮影ブース
- 国際フードフェスタ (CA 図書委員会)
- 生徒によるパフォーマンスもあるかもしれません

詳細については、メールで図書チームにお問い合わせください: library@kist.ed.jp

生徒達に有意義な学習経験を提供する機会を与えて下さったすべての教員、CA図書委員会、学校アドミニ、とKISTコミュニティの皆様にご感謝申し上げます。

KIST Library Team



保健便り

感染性胃腸炎について

感染性胃腸炎とは

感染性胃腸炎とは、主にウイルスなどの微生物を原因とする胃腸炎の総称です。

原因となるウイルスには、「ノロウイルス」

「ロタウイルス」、「サポウイルス」、「アデノウイルス」などがあり、主な症状は腹痛・下痢、嘔吐、発熱です。「ロタウイルス」、「アデノウイルス」による胃腸炎は、乳幼児に多く見られます。これらの胃腸炎は、症状のある期間が比較的短く、また、ウイルスの種類によって異なる治療が行われることも通常はないため、ウイルス検査を行うことなく、流行状況や症状から「感染性胃腸炎」として診断されることがあります。



原因と感染経路

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、人から人へ感染する場合と、汚染した食品を介しておこる食中毒に分けられ、次のような感染経路があります。

- 感染した人の便や吐物に触れた手指を介して、ノロウイルスが口に入った場合
- ノロウイルスを内臓に取り込んだカキやシジミなどの二枚貝を、生で又は不十分な加熱処理で食べた場合
- 感染した人が十分に手を洗わずに調理した食品を食べた場合
- 感染した人の吐物や便が乾燥して、細かな塵と舞い上がり、その塵と一緒にウイルスを取り込んだ(吸い込んだ)場合

感染予防のポイント

1. まず一人ひとりが手洗いをきちんと行うことが大切です。特に排便後、調理や食事の前には、その都度、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
2. カキなどの二枚貝を調理するときは、中心部まで十分に加熱しましょう(中心温度85~90℃で90秒間以上の加熱*が必要です。)*「大量調理施設衛生管理マニュアル」(厚生労働省)より
3. 吐物などは、次亜塩素酸ナトリウム(塩素系の漂白剤)を使用し、適切に処理しましょう。
4. 吐物などを処理する際は、使い捨ての手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

感染性胃腸炎の治療

ウイルスを原因とする感染性胃腸炎には特別な治療方法はなく、つらい症状を軽減するための処置(対症療法)が行われます。乳幼児や高齢者では下痢等による脱水症状を生じることがありますので、早めに医療機関を受診することが大切です。嘔吐の症状がおさまったら、少しずつ水分を補給し、安静に努め、回復期には消化しやすい食事をとるように心がけましょう。

Makiko Whittaker
School Nurse

「今日、どうだった？」と聞くための方法

皆さんこんにちは、

私が自身の2人の子供を学校に迎えに行くと、必ず「今日はどうだった？」と聞きます。彼らからの返事はいつも「大丈夫」「良かった」「まあまあ」といったもので、あまり多くの情報を得ることは出来ません。私はもっと多くのことを彼らに教えてほしいのです！



最近、私は1年生と4年生の子供の父親でもあるSimple Simon and Companyによるすばらしい記事を読みました（リンク：<http://goo.gl/oYHVBI>）。彼の書いたすばらしい質問リストを是非も皆さんにもご紹介したいと思います。

これらの質問から多くの会話が生まれ、皆さんのお子さんが学校生活をどう思っているのかを知るためのきっかけになればと望んでいます。

Timothy Smith (Mr Tim)
ELS Instructor (K2) / Elementary ITC

「今日、学校はどうだった？」と言わずに 子供に質問する20の方法

（「今日、どうだった」と聞かない方法）

1. 今日、学校であった一番良かったことは？（一番悪かったことは？）
2. 今日、どんなことで笑ったか教えて。
3. 学校で一番かっこいい・面白い場所は？
4. 今日聞いた変な言葉を教えて（誰かが話していた変わった言葉）。
5. もし、今夜担任の先生に電話したら、あなたについてどんなことを話してくれるかな？
6. 今日はどんな風に誰かを手伝ってあげた？
7. 今日、誰かがどんな風にあなたを手伝ってくれた？
8. 今日覚えたことを一つ教えて。
9. 今日一番楽しかった・幸せだったのはいつ？
10. 今日つまらなかったのはいつ？
11. これまで一度も遊んだことのない子と休み時間に遊ぶとしたら、誰にする？
12. 今日あったいい事を教えて？
13. 今日、先生が一番多く言ったことは？
14. 学校でもっとしたほうがいい事・学んだほうがいいことは何だと思う？
15. 学校であまりしないほうがいい事・学ばないほうがいいことは何だと思う？
16. クラスで貴方がもっと親切に出来る子は誰だと思う？
17. クラスで一番面白いのは？何でだと思う？
18. お昼ごはんが一番好きだったのは？
19. もし、明日先生になれるなら、何をする？
20. 今日、学校で鉛筆を使った機会を3つ教えて。

出典 “25 Ways” by Simple Simon and Company <http://goo.gl/oYHVBI>

Staff 10!

今月のスタッフ10!では、2014年にエレメンタリースクールの幼稚園教師として加入し、現在K2の担任をしているAya Kurosakiをご紹介します。



Ms Kurosakiと友達。

● 出身地について面白いことを教えてください。

私には故郷が一つではなく、いくつかあります!日本での故郷は千葉県で、ここは東京ディズニーランドやディズニーシーがあるところ

です。ニューヨーク州にある私の家はDick Van Dyke ショー

のセットにも使われました。

● 世界で一番好きな場所はどこですか?

今のところ、一番好きな場所は米国、バーモント州です。州全体が自然でいっぱい(「緑の州」と呼ばれています)これまで見た中で一番美しい星空があります。この家にはそれぞれ裏庭に(他の州の裏庭にプールがあるのと同じように)大きな浴槽(hot tub)があり、心地よい空気の中、漆黒の空に浮かぶ無数の星の下で温かいお湯につかりながら静けさと穏やかな時間を楽しむことができます。

● チャンスがあったら会ってみたい人は誰ですか?その理由を教えてください。

また、祖母に会いたいです。数年前に亡くなってしまったのですが、遠くに住んでいたの、あまり会うことができませんでした。私も大人になったので、今、会うことが出来たら一緒に楽しいときを過ごせると思います。美味しいお味噌と梅干の作り方を教えてもらいたいです!

● 何か特別なスキルやタレントをお持ちですか?

音楽がかなり得意で、たくさんの楽器を弾くことができます。写真やビデオ撮影も好きです。着物の免状(着付けだけですが)も持っています。そして笑うことです。私が笑っているときにあまりに息を吸い込むので見ている人たちは私が過呼吸になったと思うようです。

● ご自身についてあまり知られていないことを教えてください。

今でも、少しでも怖い映画をじっと見ていることが出来ません。私はファミリー向け映画と昔のディズニー映画の大ファンです。一番好きなのはライオンキングの三部作です。人生で最初に見たミュージカルは5年生の時のLes Miserables (レ・ミゼラブル)でした。学年全体でNYCに見に行ったのですが、当時は音楽に圧倒されて筋を完全に理解することは出来ませんでした。それでも、当時から今までにこれほどまでに力強く、感動的なミュージカルを見たことはありません。また、動物が大好きで、9歳のとき、近くの小川で空のテニスボール缶にかえるをたくさん捕まえて、妹と一緒に母のテニススクールの女子更衣室に放してかえる競争をして遊びました。

● あなたにとって一番の宝物は?

楽器と着物です。スタインウェイ・アンド・サンズのグランドピアノとドイツ製のフルート、セネガルの太鼓、ジャンベンを持っています。これらの楽器とは多くの思い出を共有してきました。

● ご自分を言葉で表現すると?

元気!前向き!元気!前向き!

● もう一度人生をやり直せるとしたら何か他のことをしたいですか?

今の場所にいる、今のままのすばらしい人たちに囲まれた自分として、これまでの失敗や後悔の記憶を持ったままもう一度人生をやり直したいです。

● 自分を高めるために今やっていることは?

周りの人たちから日々学びながら、考え深く、心配りの出来る教師・人物になりたいです。IB教師として、私も日々学び続けています。常に「新しい」ことによって触発され、活力を得ながら日々を過ごす力を得ています。

● ファンに一言お願いします。

「目的や決意を持って生きる。ぎりぎりのところを生きる(限界まで突き詰める)、良く聞き、心身の健康を求める。自由に、思い切り遊ぶ、笑う。自身の選択に後悔しない。学び続ける。友人に感謝する。好きなことをする。思い切り生きる・完全燃焼する」(Mary Anne Radmacherの言葉)



9月のCometで実施したIB バッグ抽選の当選者は:

G5B の T. Ashida

でした。おめでとうございます!



クラブ活動のハイライト



スペイン語クラブ(エレメンタリー)

iHola! まず、スペイン語クラブに参加してくれた生徒全員に感謝します。毎週、生徒達が新しい言語の習得のために努力しているのをとても嬉しく思っています。生徒達が私を見かけた時に、英語で“Hello”ではなくスペイン語で“Hola”と挨拶してくれることで、とても幸せな気持ちになります。そして毎週、生徒達にスペイン語が上達していくのに驚かされます。

今のところ、スペイン語クラブでは基本的な挨拶、数、曜日、動物や色の名前を学習しました。生徒達は毎週、ゲームを通して、今習っていることをよりしっかりと覚えるようにしています。クラブ期間の終わりごろに、生徒達はMacarena ♪に合わせて踊る練習をする予定です。このニュースターを読んでいらっしゃる保護者の皆さんは、お子さんとMacarena ♪を踊る準備をしておいてくださいね!

最後に、私は母校で自分のスペイン語の知識を後輩たちと共有できることをとても光栄に思っています! もし、私がクラブで指導した生徒がいつか、クラブ以外で実際にスペイン語を使うことが出来たら、これにまさる喜びはありません! 皆さんのお子さんが、私がそうであるように、クラブを楽しんでくださっていることを心から望んでいます。

Joann Yamazaki
Spanish Club Supervisor
(KIST 2010年度卒業生)



セカンダリー料理クラブ

既に気付かれた方もいらっしゃると思いますが、毎週水曜日の放課後、本館1階の廊下で良い匂いがしているのに気付かれましたでしょうか?なぜなのかご存知ですか?

答えは、セカンダリーの料理クラブが水曜放課後に活動しているからなのです!

料理クラブの生徒達は様々な料理の作り方を学んでいます。これまでのところ、トマトスパゲティ、白玉入りフルーツパンチ、スコーン、うどん、餅ピザ、蒸しパンや広島風お好み焼きなどを作ってきました。ほとんどは成功しましたが、思ったとおりに行かなかったこともあります。この上手いかなかったときこそ、私たちが失敗から多くを学ぶように、生徒達が本当に料理について学べる機会なのです。この一例は、生徒達が粉からうどんを作った時のことです。生徒達はうどんを細く切ることの難しさや、あまり力を入れすぎるとうどんがくっついてしまうことを学びました。

クラブの生徒達は料理の仕方を学ぶことを楽しんでいますが、(生徒達によると)一番楽しいのは、作ったものを試食する時だそうです! クラブにはしばしば作ったものを覗きにお客様がやって来ます。興味がある人は、是非これからのクラブサイクルで料理クラブを見逃さないようにしてくださいね。

Nanami Sakuma
Cooking Club Supervisor



セカンダリーSRC

The survival of the KISTest

学年度の初めに、セカンダリーSRCは、指導教員と、セカンダリー校長の協力を得て、初の「縦割り」イベント、「The Survival of the KISTest」を開催しました。このイベントでは、全学年の生徒達が、各学年から一人ずつ無作為に割り当てられたグループで互いに協力し合い、競争形式の借り物競争に参加しました。

このイベントは9月18日に、アドバイザリーに割り当てられた1時間を使って開催されました。Survival of the KISTestの第1部は全生徒が手をつないで輪を作り、制限時間内にそのつなぎ目・輪を解くというものでした。次に、グループ単位で学習、学校、ポップカルチャー、歴史などから出題されるトリビアクイズに参加しました。第3部では、グループでの美術プロジェクトで、色画用紙など限られた画材を与えられた各グループでKISTのハウスカラーとチームワークを表す作品を制作しました。

生徒達はこのSRC役員、指導教員、セカンダリー校長によって極秘に企画されたイベントに驚くとともに、とても楽しかったと感想を述べていました。イベントの前に生徒達はそれぞれのグループ番号を知らされていましたが、そ

で何をするのかは全く知らされていませんでした。最後に制作された各グループの美術作品は、メンバーがコミュニケーションを取り、効果的に協力し合うことが出来るということを証明してくれました。

このイベントは大成功で、同じグループになった生徒達は今でも、互いに挨拶をし合っています。上位3位までの美術作品は皆で鑑賞できるよう、カフェの隣の掲示板に飾られています!

SRCは、生徒の皆さんはイベントを楽しんでくれたことを嬉しく思っています。私たちはこれからも、様々な学年の生徒達がコミュニケーションを取り合えるようなチームビルディング活動をこれからも企画していきたいと思っています。

Secondary SRC



女性のリーダーシップ会議



私たちは、2015年11月19日に、日本女子大学で開かれたパネルディスカッションにKIST代表として出席する名誉を得ました。パネルディスカッションは主に女性のリーダーシップと、海外留学の利点についてのものでした。アメリカ合衆国大使、Caroline Kennedy氏と、Smith Collegeの学長、Kathleen McCartney氏のリーダーシップについてのご意見とアドバイスを伺うことが出来たことで大いに触発されました。パネリストには、日本女子大のプログラムを通してアメリカにも留学した経験を持つ同大学卒業生の方もいらっしゃいました。

ディスカッションはリーダーシップの機会を求め、実践するとともに海外の新しい環境で学ぶことについて説く、大いに触発される内容でしたが、特に心に残ったのは、Caroline Kennedy氏による開会の辞で、多くの人が新しい環境で学ぶことで数限りない貴重な経験を得たことを踏まえ、新しく、それゆえに恐れを感じる新しい環境を目指す前に取るべきアプローチを示唆した「跳ぶ前に観察せよ」というものでした。

会議参加者に女子高生が含まれていたため、多くの質問が女性のリーダーシップについてでした。パネリストたちは、海外留学など、一種の恐怖体験は、一転、自信に繋がる可能性もありという意見に同意しており、リーダーシップに必要な能力を育成する上での大学の役割の重要性が示されています。

パネリストたちは、リーダーシップスキルの育成のため、特に人文系の教養科目を提供する大学(Liberal Arts Universities)の重要性について説いています。様々な異なる分野で学び、異なる視点を理解することによって得た知識やスキルは確実にその個人の自信や知識を形作ります。このスキルや知識を大学在学中に、一箇所で身に付けることが出来るという点についてパネリストの意見が一致したようです。

Caroline Kennedy氏 や Kathleen McCartney氏といった素晴らしい人々の意見を伺うことが出来るこのような会議に出席できたことは私たちの教育やリーダーシップについての考え方を考える、体験でした。この会議への出席は、非常に啓発的で、私たちの心を捉えた出来事でした。

Nina (G11A) and Radhika (G11B)



教育におけるテクノロジー.....

利点のみを享受できるのか？

国際的な学習到達度に関する調査 (PISA) を行っている経済協力開発機構 (OECD) は最近、「生徒、コンピュータ及び学習: 関連付け」 ([available here](#))、と銘打った研究結果を発表しました。ここでは以下、教育とテクノロジーの使用に関する興味深い研究報告がなされています。

- 学校でめったにコンピュータを使用しない生徒に比べ、適度に使用する生徒のほうが良い学習成績を示した。
- 学校で頻繁にコンピュータを使用する生徒は適度に使用する生徒より低い学習成績を示した。
- 教育におけるテクノロジー使用に多くの投資を行った国では「生徒の読解や算数・数学、科学において特筆すべき向上・進歩は見られなかった」(p. 3)。
- 学校外で過剰にネットをしている生徒は出席率の低下や社会性の問題に直面しがちである。

上記がKISTにどのようなかわりがあるのでしょうか? KISTのミッションは、学費を抑え、手の届く範囲で国際

教育を提供することですが、同時に予算の範囲内で最高の情報コミュニケーションテクノロジー (ICT) を提供する努力を行っています。学校では最近エレメンタリー of コンピュータ室及び教室のコンピュータの更新を行い、セカンダリー LMC の生徒貸し出し用コンピュータの古いもの数台を新しいものと交換し、9年生から12年生の生徒全員を対象とした1:1のコンピュータプログラムを拡大しました。更にセカンダリースクールではITをベースとした、コーディングに重点を置いたデザインの授業を提供しており、各教員にも、Moodleページの維持管理を含め、生徒の一般的なソフトウェアアプリに対する理解を促進するため、日々の授業でICT関連のアプローチを推進するよう求めています。

私たちはKIST生が、学習に最適な形でコンピュータやその他のテクノロジーを活用していると確信しています。しかしながら、同時にコンピュータはあくまでも生徒の学習経験における補完的な役割を担うものでなければ



ばならないと認識しています。最新のハイテク機器に投資することより、生徒達に強固な読解や算数・数学力を築くことのほうが、生徒の成功には大切であると考えています。この考えの正しさは、「奥深い概念的な理解力と高度な思考力の養成には教師と生徒との密接なかわりが必要であり、テクノロジーは時としてこの貴重な人間的なつながりを阻害する」(p. 3) というOECDの研究結果にも支えられています。

テクノロジーは教育や学習にとって素晴らしいサポート素材ともなりえますが、このOECDの研究結果は、学校がこれに過剰に頼ることへの警鐘を鳴らしています。

「...テクノロジーは素晴らしい教育を広げることが出来るが、テクノロジーは貧弱な教育の代替とはならない」
(p. 17)


算数・数学期待値 - 改定

4年生から10年生を対象とした算数・数学診断テストが2016年1月15日に実施予定です。過去のデータ及びそのフィードバックを元にKIST Performance Expectations (KISTパフォーマンス期待値): 算数・数学の文書に若干の修正が加えられました。改訂版の文書は学校ウェブサイト上の新しいオンライン・ファミリーハンドブックからアクセスいただけます ([Section 17 - click here to access](#))。

これまでの数学期待値では、セカンダリーの生徒に関しては夏休み中の生徒の進歩を求めていました。これを改訂し、学年度末の期待値と次年度初めの期待値が更に一致したものになりました。

全ての保護者の皆さん及び生徒には、KIST Performance Expectations (KISTパフォーマンス期待値): 数学 文書をご確認いただき、1月の試験の目標設定に活かして頂きたく思います。

HAPPY STUDYING!

$\sqrt{-1}$ 
Math

お子さんにニュースの説明をする場合

今日、子供たちは直接テレビ、友人、ソーシャルメディアなどからニュースを得ています。そして、しばしば、携帯やパソコン上のサイトから彼らの年齢にふさわしくない大人向けの情報も入手しています。子供たちには、まだニュースの内容をまだしっかりと理解する能力はありません。そればかりでなく、その情報源が信頼できるものであるかを判断する能力も未発達です。お子さんがいくつであろうとも、恐ろしいものや、悲しいニュースは彼らの精神に影響を及ぼします。

すべてのお子さんへのヒント

お子さんに、彼らは安全であり、そのニュースが多くの注目を集めているものの、遠い場所での出来事の一つに過ぎないということ説明し、安心させてあげてください。子供たちは保護者や周りの皆さんの反応を見て、自身が取べき態度を判断します。皆さんが落ち着いていらっしゃれば、子供たちも安心し、落ち着きます。

7歳以下のお子さんへのヒント

お子さんが恐怖を覚える、特に他の子供たちが危険にさらされているような映像・画像は出来るだけお子さんの視界から排除しましょう。虚実や恐怖の感情への整理が上手く出来ず、混乱してしまいがちな小さな子供たちに恐怖を覚えるようなものを見せる必要はありません。

また、子供たちは安全や、保護者や家族と引き離されることを最も恐れているので、家族は皆安全なのだということを繰り返し強調してあげてください。しっかりと話を聞き、子供の感じている恐怖を過小評価しないことは重要ですが、注意をそらしたり、身体的に満ち足りた状況を作ったりすることは有効です。なにか楽しいものを見たり、一緒に楽しいことをしたりすることは時として論理的な説明より効果的です。

8～12歳のお子さんへのヒント

お子さんの成熟度と、気性を注意深くご検討ください。多くの子供たちが恐ろしい出来事について話し合うことが出来ますが、もし、かなり繊細なお子さんであれば、テレビのニュースなどは見ないことをお勧めします。

お子さんが質問をしたり、話をしたり出来るようにしてあげてください。この年齢の子供たちの道徳心はまだ発達段階にあり、はっきりと黒か白・善か悪に分かれています。お子さ

んに、差別や偏見、民族や宗教的な紛争について説明する必要があるかもしれません。

もし、お子さんのインターネット使用を許可されている場合、お子さんと一緒に見るようにしてあげてください。掲載されている画像がかなり恐ろしく陰惨なものであることがあります。お子さんが見ているサイトを監視・監督し、URLをニュースポータル以外に設定されることをお勧めします。



ティーンエイジャーへのヒント

多くの場合、彼らは保護者の方の知らないところで情報を入手しています。彼らと話す機会を作ることで、子供たちの政治に対する感覚や、正義に対する意識、道徳心などを養うことが出来ます。

彼らに自身の思っていることを表現させてあげてください。十代の子供たちの多くが起きた出来事に対し共感し、知っている人が直接関わっている場合、感情移入します。彼らの感情や共感を過小評価したり、無視したりすることなく、話を聞いてあげてください。

もし、同意できないメディアや、意見がある場合、是非、その理由をお子さんに説明してあげてください。そのようなことを通して、子供たちは自信が情報を得たメディアやニュースの内容を吟味できるようになるのです。

上記はCommon Sense Mediaの、*Explaining the news to our kids* という記事からの抜粋です。この全文はこちらのリンクからご覧いただけます。

<https://goo.gl/tGMMeU>

Timothy Smith (Mr Tim)
ELS Instructor (K2) / Elementary
ITC Integration Support



注意

算数・数学力診断テスト(G4-10)

2015年1月12日



KISTクロスカントリー協議会



11月12日、木曜日に開催されたKISTクロスカントリーに参加し、完走した皆さん、よく頑張りました。お天気にも恵まれ、荒川河川敷ですばらしい時間を楽しむことができました。以下は12月3日のISTAAクロスカントリー競技会にKISTを代表して参加する各学年の男女上位入賞者4名ずつのリストです。ISTAA参加校は次の8校です：United School of Tokyo、Tokyo International、The Montessori School of Tokyo、Nishimachi International、New International、Canadian International、Colombia InternationalとThe British School in Tokyo。参加者の皆さんの幸運を祈ります！

Boys

Grade 1

- 1) Luca (G1A)
- 2) Sora (G1B)
- 3) Zai (G1A)
- 4) Akihiro (G1A)

Grade 2

- 1) Roan (G2B)
- 2) Naoki (G2A)
- 3) Mark (G2A)
- 4) Teo (G2B)

Grade 3

- 1) Killian (G3A)
- 2) Ryo Y. (G3B)
- 3) Sebastian (G3B)
- 4) Arthur (G3A)

Grade 4

- 1) Lance (G4B)
- 2) Kaito (G4B)
- 3) Tatsuto (G4A)
- 4) Kian (G4B)

Grade 5

- 1) Keanu (G5A)
- 2) Soma (G5A)
- 3) Shin (G5A)
- 4) Harunosuke (G5B)

Grade 6

- 1) Ryuta (G6A)
- 2) Kaiser (G6B)
- 3) Ross (G6B)
- 4) Hugo (G6A)

Grade 7

- 1) Joe (G7B)
- 2) Den (G7B)
- 3) Preston (G7A)
- 4) Noah (G7B)

Grade 8

- 1) Nimit (G8B)
- 2) Ewan (G8B)
- 3) Tomohisa (G8A)
- 4) Namiki (G8B)

Grade 9

- 1) Keina (G9B)
- 2) Shin (G9A)
- 3) Tom (G9A)
- 4) Igor (G9A)

Grade 10

- 1) Taisei (G10B)
- 2) Chan (G10A)
- 3) Moe Min (G10A)
- 4) Shouheng (G10A)

Grade 11

- 1) Ken (G11B)

Girls

- 1) Uta (G1A)
- 2) Aina (G1B)
- 3) Riko (G1B)
- 4) Akane (G1A)

- 1) Kate (G2A)
- 2) Sara (G2A)
- 3) Emily (G2A)
- 4) Mamiko (G2B)

- 1) Hana (G3A)
- 2) Mano (G3B)
- 3) Sophia (G3A)
- 4) Hoyuki (G3A)

- 1) Homare (G4B)
- 2) Akari (G4A)
- 3) Nikol (G4B)
- 4) Aina (G4B)

- 1) Elena (G5B)
- 2) Sola (G5B)
- 3) Aimi (G5A)
- 4) Diane (G5A)

- 1) Manaka (G6B)
- 2) Nanami (G6A)
- 3) Se Young (G6B)
- 4) Rina (G6A)

- 1) Maki (G7A)
- 2) Sato (G7B)
- 3) Alia (G7A)
- 4) Ririka (G7A)

- 1) Karen (G8B)
- 2) Emily U. (G8A)
- 3) Katherine (G8A)
- 4) Michiru (G8B)

- 1) Ayumi (G9B)
- 2) Asami (G9A)
- 3) Milan (G9A)
- 4) Emiri (G9A)

- 1) Jiu (G10A)
- 2) Seina (G10B)
- 3) Leia (G10A)
- 4) Selena (G10B)



インタナショナルスクール生、MUNのためにKISTを訪問..

KISTの模擬国連クラブは、11月28日(木)に、近東国模擬国連会議を主催しました。過去最大規模となる7校から、85名以上の生徒が参加し、世界各国の大使としての役割を担いました。丸一日の模擬国連活動で、生徒達は国際規模の問題に対する解決策の草稿を練り、議論を行いました。以下は、初めてこの活動に代表として参加したEmiri (G9A) と、今年が最後となる模擬国連で議長を務めた経験豊富なAditya (G12B)による感想です。

初めての代表活動

想 像してみてください: 各国を代表する使節団が、国際規模の問題への解決策を議論し、各国間に経済均衡をもたらすのです。考えてみると、たった数時間で各国が意見を出し合い、国際規模の問題の解決に向けた合意に至ることが出来るのですから、驚くべきことです。今年、KIST主催の模擬国連会議に初めて参加することが出来ましたが、これは私がセカンダリーで経験した中でも最高の出来事でした。

毎週木曜日に私たちはMr White、Mr Erickson、Mr Cernak と Ms Jesuthasan の監督の下、模擬国連の仕組みを学び、会議に向けた準備を行いました。このクラブに参加することで、勿論、11月28日の会議に向けた準備も出来ますし、ディベートのための技術を学ぶことも出来ます。そして、異なった学年の生徒と交流し、世界規模の問題について話し合い、新たな知識を得ることが出来たことは私にとって最も大きな収穫であり、価値観を大きく変えた体験でした。

会議全体を通して一番感動したことは、これまで全く知らなかった他校生徒とあつという間に親しくなれるということでした。出会ってほんの数分で自分たちが代表する国の視点で与えられた問題点を議論し、自国にとって最も有益で、建設的、各効果的な解決策を策定することが出来るのです。

この経験を表現するならば、「すばらしい」の一言に尽きるでしょう。もちろん、全員が自分の意見に同意してくれるわけではありません。そのようなときでも、人の意見に対し、寛容で柔軟であるという学習者像にある態度を育むことができます。また、自国の解決策・提案を完成させるために休憩時間を犠牲にしたり、代表者同士の議論があまりにも白熱したのになってしまったりするときもあります。それでも、振り返って見ると、会議があつという間に過ぎ去ったように感じ、国際社会がどのように出来上がっているのか、世界を共有し、より良くするために皆が協力合っていることの意義を噛みしめることが出来るのです。このようなすばらしい機会を与えてくださり、またご支援くださった、Mr White、Mr Erickson、Mr Cernak と Ms Jesuthasan に感謝いたします。

Emiri (G9A)



KISTの代表団が解決策の投票に参加しているところ。



KIST生が他のインターナショナルスクールの代表者と解決策の草稿を作成しているところ。

経験豊富な代表が議長に

全 く知らない学校からの生徒でいっぱいの教室に入っていくことは間違いなく緊張する出来事です。それに加えて、その内の数人から好戦的な議論を仕掛けられるとあつては、大変な難題に直面したようなものですが、その結果は最初に思っていたものよりも遥かにすばらしいものだと思ってい切れます。

模擬国連 (MUN) は世界的にも広く知られているクラブ活動で、現在の国際問題について議論し、生徒達同士が協力し合いながら解決策の提案を目指します。生徒達は実際の国々の代表者としての役割を担い、異なる意見の対立や同調を実体験します。この活動は完全に学生中心であるため、議論の方向性や流れを定める審判(議長と呼ばれています)も学生が務めます。

ここKISTで、東京や横浜のインターナショナルスクールから、80人以上が参加する近東国模擬国連会議を開催できたことは大きな誇りであり、喜びでした。この多様な参加者層のおかげで、私たちは異なる学年だけでなく、様々な異なる背景を持つ生徒達との交流を行うことが出来ました。この活動は、リーダーシップ、コミュニケーションや対話など多くの重要な能力を強調するため、生徒達の総合的な発達をサポートしてくれると確信しています。さらに、このグローバル化の時代、このような学習機会は実際に相互で行動した上で行えるという点で大変すばらしいものであるといえるでしょう。

私は、ここKISTで初めて模擬国連の代表を務めた時のことを今も鮮やかに思い出せます。最初の年は、経験のある他の代表者のペースについていくのが大変だったことを覚えています。他の生徒達が知らされたばかりの内容について短い準備時間で完璧な議論を展開しているのを畏怖の目で眺めたものでした。それでも、会議で得た経験や技術をこれからの会議で活かせると思うと、全てがすばらしい経験でした。初めての模擬国連への参加から4年後の今年、私は総会の一つで議長を務めることを申し出ました。議長の地位を務めるためには、全ての問題に精通していることと、他の代表者たちが効率よく議論できるような環境を整えることを求められました。また、議論が円滑に行われるための手助けをすること、「議場を乱すことなく保つ」ことも求められました。議長の地位を務めたことで会議を外部の視点から観察できたことも大きな収穫でした。双方の意見を聞き、どちらを採用すればより効果的で理想的な議論となるかを判断しなければなりません。また、議長の任務は非常に技術的なものでもありました。例えば、各代表者がそれぞれだけ話していたか、何回発言したか、そして表決の結果などを記録することです。この役割は非常に注意力と効率、マルチタスクスキルを要求する大きな労力を要求するものですが、同時に、要領を掴めさえすれば、とても実り多いものでもあります。MUNの経験を有する代表者の皆さんには、議論に新たな視点を加えてくれ、一代表者では得ることの出来ない新しいスキルを得ることが出来るこの役割を是非、引き受けることをお勧めします。

Aditya (G12B)



ロビー活動にも強力なコミュニケーションスキルが必要になります。



9年生と10年生が休憩を楽しんでいるところ。

MYPの学習

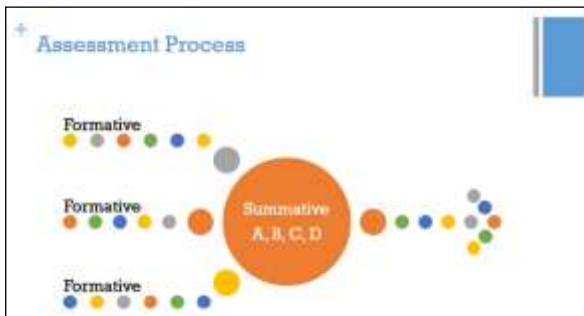
評価:最適なものを探す

生徒達はMYPの学習を進める中で、すぐに、多くの努力が求められるということを悟ります。

全ての生徒は幅広い教科において、主要な、そして関連する概念を学習する義務があります。生徒達は各教科で、難易度の高い内容に取り組み、新しい技術を発達させます。そして最も重要なことは、生徒達がそれぞれの知識と理解を示す(発表する)ことです。

この理解の発表こそ、評価の対象となります。MYPの生徒評価システムには2つの主要な要素があります: 形成的評価と、包括的評価です。

形成的評価 vs. 包括的評価



生徒達は多くの形成的評価に取り組んだ後、限られた数の包括的評価課題を行います。

形成的評価では、生徒達に課題を通して考え、フィードバックを通して学習への取り組みを見直す機会を与えます。形成的評価は様々な方法で行われます。宿題、小テスト、クラスでのディスカッション、その他色々な活動が考えられます。

包括的評価は形成的評価期間の最後に行われます。形成的評価は包括的評価に至るまでのリハーサルのようなものです。学期毎に最低2回、各教科の評価基準に照らした合わせた評価が行われます。形成的評価課題にとともに、包括的評価課題でも、学力向上と、必要なスキル習得のための機会が提供されています。

MYP 評価基準

MYPの各教科群で、生徒達が行う探求を評価するための

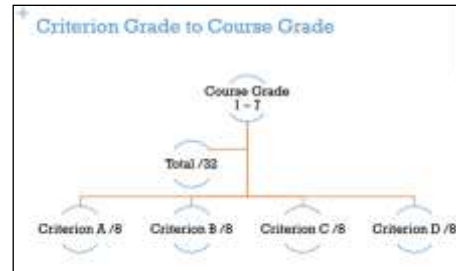
	Criterion A (0-8)	Criterion B (0-8)	Criterion C (0-8)	Criterion D (0-8)
Arts	Knowing and Understanding	Developing Skills	Thinking Creatively	Responding
Language and Literature	Analyzing	Organizing	Producing Text	Using Language
Sciences	Knowing and Understanding	Inquiring and Designing	Processing and Evaluating	Reflecting on the impacts of Science
Mathematics	Knowing and Understanding	Investigating Patterns	Communicating	Applying Mathematics in Real-World

教科群ごとに、最もその学習内容にふさわしい評価基準を選択しています。

評価基準が4つずつ設けられています。すべての教科で評価基準を4つ設けることで、生徒とその保護者も各教科を比較し、どの教科により力を入れるべきかを判断することが出来ます。

評価基準点から教科成績への変換

各学期末にMYP教科では生徒各自の成績を発行します。学期レポートではすべての基準の最高点を8点として評価します。生徒はすべての教科の評価基準合計で最高で32点を取得することが出来ます。



各評価点は最低2つの評価課題から算出されません。教員は様々な点数中、もっともふさわしい点数を選択します。

評価の合計点32点は、その後、以下の成績換算表を元に最高7点で示される最終成績に変換されます。

MYP Grade Boundaries	
7	28 - 32
6	24 - 27
5	19 - 23
4	15 - 18
3	10 - 14
2	6 - 9
1	1 - 5

評価点の合計により最終的なMYP成績が決定されます。

IBでは、世界中のすべてのMYP校に共通の評価記述を公開しています。評価基準を用いた2種類の評価で、保護者の皆さんにも、生徒自身にも、個々の生徒の強みと弱みをしっかりと伝えることが出来るかと確信しております。

MYP Grade Boundaries	
7	Excellent
6	Very Good
5	Good
4	Satisfactory
3	Mediocre
2	Limited
1	Very limited

上記評価記述はIBのMYPIに関する主要文書に記載されているものです。

最後に、評価の究極の目的は生徒の学習をサポートし、その発達を助けるためのものであることを心に留めておくことが重要だと思えます。生徒が独立した学習を行い、しっかりとした理解力を発達させることこそが成功への近道なのです。

Robert White
MYP Coordinator

カレッジガイダンスニュース

G12 university application

北半球の大学出願サイクルは9月にはじまり、現12年生には10月から11月の早期出願期間にイギリス、アメリカや日本の大学に出願した生徒が数名います。なかにはすでにセント・アンドリュース大学、ユニバーシティカレッジロンドン、オレゴン大学などから合格通知が来ている生徒もいます。おめでとうございます！結果を待っている生徒やこれから通常の出願期間である年末から年始にかけて出願する予定の12年生から、つぎつぎに良いお知らせが来ることを期待しています。

Alumni talk by PPO, KIST Class of 2011



11月12日に2011年度の卒業生 PPO がランチタイムにKIST Alumni Talk に来てくれました。彼は今年の春にシカゴ大学を卒業し、現在東京にあるコンサルティング会社で働いています。Alumni Talk には9年生から12年生までたくさんの生徒が集まり、シカゴ大学での様子やシカゴでの生活の話聞くだけでなく、DPや大学受験準備、就職活動についてのアドバイスをもらうことができました。ありがとうPPO！（彼はシカゴ大学での大学生活について、以前のスクールニューズレターに寄稿しています。2012年度のthe Comet 9月号18ページをぜひご覧ください。）



SCAD presentation by Vigi, KIST Class of 2015



12月1日、2015年どの卒業生 Vigi が在籍している大学サバンナカレッジオブアーツアンドデザイン(SCAD)の学生アンバサダーとして Ms JusticeのG12 DP Visual Arts クラスを訪問し、大学のビデオやパワーポイントを使って、すばらしいプレゼンをしてくださいました。すでに一学期間をすごしたアメリカ

ジョージア州サバンナのSCAD サバンナキャンパスでの充実した大学生活について熱っぽく語り、インテリアデザインを主専攻に、広告を副専攻にしたいと話していました。また、IB生徒にはスコアに応じて、相当額の奨学金がもらえるというメリットがあるというのも耳寄りな情報でした。やったね、Vigi! これからのSCADでの成功と卒業後の活躍をお祈りしています。



Mrs Okude meets Caroline Kennedy



Mrs Okudeは、キャロラインケネディー駐日アメリカ大使からの招待を受け、11月19日の夜に大使公邸で開催された「アメリカの大学同窓生の日本での活動とアメリカと日本の相互交流への貢献をたたえる」というレセプション

に母校であるジョージワシントン大学の公式同窓会日本支部代表としてまた、KISTの大学進学担当として出席しました。光栄にも彼女は直接大使と会話をすることができ、大使のご母堂であられるジャクリーンケネディー氏はジョージワシントン大学の同窓生(1951年卒)であることやMrs. Okudeが3年前に同大学の公式支部を日本に立ち上げてから、日本からの学生が3倍以上に増えたこと(2014年度卒業生のSashankとNaishiも含まれます)などを話しました。



Mrs Keiko Okude

College Guidance Counselor

Office hours: Mon, Tue, Thu, Fri 10:00-17:00

keiko.okude@kist.ed.jp